

連合千葉 2025 春季生活闘争総決起集会 会長挨拶

昨年は全体で33年ぶりとなる5%台の賃上げが実現しました。

連合が3年前に掲げた「未来づくり春闘」によって、ようやく賃上げが当たり前といった流れになってきました。働く者の立場で言えば、ステークホルダーである従業員の働く価値に見合った労働分配率の向上にも目を向けられてきたと思うところです。

働く者の賃上げが、持続的な消費喚起を促し、日本経済全体の好循環の原動力となることは、あえて言うまでもありません。連合がそのけん引役となることが、春季生活闘争の責務であると思います。しかしながら、暮らし向きが良くなったという実感が無い、と思っている方が半数を超えているという調査結果もあります。これは、物価上昇に賃金が追いついていないこと、中小・小規模事業や非正規形態で働く方へ賃上げの流れが行き届いていないことも大きな要因です。「賃金も物価も上がらない」といった、社会的規範：ノルムを変え、賃上げが当たり前の社会を「定着」させる流れを創り出すこと、賃上げの流れを逆戻りさせない瀬戸際である、という危機感を持ちながら、中小組合、さらには労働組合が無い企業で働く方々にも波及させる運動としなければなりません。結果に拘り広く波及させる春季生活闘争に、決意を持って取り組む必要性を強調しておきたいと思います。

賃上げ、人への投資には、環境整備も欠かせない要素です。働く職場では深刻な人手不足に陥っている業種・業態が多く存在します。初任給を手厚くする動きなどありますが、「防衛的な賃上げをせざるを得ない」といった経営者の声も伺います。今後、政府が示しているように、地域別最低賃金も上がっていく傾向にあります。これらに対応していくには、製品やサービスの価値、労働の対価に見合った価格転嫁によって人件費原資を確保していくことが極めて重要です。企業による生産性向上努力によって効率化にも取り組んでいますが、為替や原材料価格、エネルギー費の高騰などへの対応には限界があります。連合では積極的に政策アプローチにも取り組んでいるところですが、県内においても、経済の発展、好循環に向けた取り組みを全方位で取り組みたいと思いますので、このことも共有しておきたいと思います。

今回の春季生活闘争では、サブスローガンに「みんなでつくろう! 働く仲間の労働組合」を掲げました。賃上げでは、企業へ直接要求し労使が対等に労働条件などを交渉できる労働組合がある企業が、無い企業より優位であったことが実績にも表れています。また、働く方々から長時間労働やハラスメントなどの職場での課題も、連合が行っている労働相談に多く寄せられています。くわえて、生産年齢人口の減少もあり高齢期になっても働き続けたいと考える方、働いてもらいたいと思う企業も増えていくと思います。働く仲間の輪を広げ、集团的労使関係を広げていく事が、働く者の処遇改善と働きやすい環境整備に繋がり、そのことがモチベーションを高め、生産性向上にも寄与するものと考えます。健全な労使関係が企業・労働者双方win-winの関係に繋がる、そのためには労働組合が必要である、ということも共有したいと思います。

この総決起集会は連合千葉が組織一丸となって、春季生活闘争に課せられた意義と責任を共有し、最後まで徹底的に取り組む意思結集の場でもあります。経済の好循環とともに「働く事を軸とした安心社会の実現」には、私たちが取り組む春季生活闘争に掛かっている、この決意を最後に申し上げ、連帯の挨拶といたします。最後の最後まで、ともに頑張りましょう!



永富会長

集会宣言 連合千葉女性委員会の
松崎菜津美委員長

第48回千葉県経営者協会との定期懇談会を開催

2025年2月13日(木) 15時30分より、京成ホテルミラマーレにて「第48回千葉県経営者協会・連合千葉定期懇談会」を開催しました。

春季生活闘争を控え、情報の共有化をはかるとともに、より良い労使関係に向けた取り組みとして、毎年この時期に開催しています。

千葉県経営者協会三枝会長、連合千葉永富会長の挨拶後、双方の2025春季生活闘争に取り組むにあたっての方針ならびに活動報告の後、

- (1) 2025春季生活闘争の意義と基本スタンス、
 - (2) 中小企業の賃金引上げと格差是正について、
 - (3) 働きやすい職場環境整備について
- 意見交換を行いました。



三枝会長



永富会長



板倉副会長



和田副会長



会場風景



次代につなぐ 平和の願い!

みんなでつくろう あした
支え合う安心社会と確かな未来を!

働くみんなの祭典

4/26 土

第96回千葉県中央メーデー

場所:千葉ポートパーク円形広場

時間:10時00分~13時30分



イベントコーナー

- 1) ミニスカイライナー乗車体験
- 2) ファーフアー(エア遊具)
- 3) 模擬店(物販販売など)
- 4) キッチンカー

(焼きそば/フランクフルト/
クレープ/かき氷 など多数)

連合千葉 2025 春季生活闘争総決起集会を開催

【スローガン】

【サブスローガン】

!!! みんなでつくろう! 賃上げ **!!! みんなでつくろう! 働く仲間の労働組合**
があたりまえの社会

連合千葉は3月1日（土）14時から2025春季生活闘争総決起集会を開催しました。

本集会は、2019年以来、6年振りの千葉市中央公園で開催し、構成組織や地域協議会が結集し、総勢1,800名が参加しました。集会は、主催者を代表して永富実行委員長の挨拶に始まり、連合本部仁平総合局長の情勢報告、立憲民主党千葉県総支部連合会奥野総一郎代表、国民民主党千葉県総支部連合会岡野純子副代表、連合千葉議員団会議天野行雄会長より連帯挨拶を受け、その後、業種別部会として流通・サービス部会の古川陽平氏（千教組）金属部会の加藤 聡氏（基幹労連）、地域協議会を代表して中央地域協議会の五木田晴幸議長から決意表明が行われました。

最後に集会宣言を連合千葉女性委員会の松崎菜津美委員長が読み上げ、満場の拍手で採択され、永富会長の団結ガンバロー三唱で閉会しました。その後、集会参加者によるデモ行進を行い、「すべての働く者の処遇改善」や「働くことを軸とする安心社会の実現」など、青年・女性委員会を中心にシュプレヒコールを行い、連合の取り組みを世論に訴えました。



永富実行委員長



仁平総合局長



天野会長



奥野代表



岡野副代表



会長挨拶



古川氏



加藤氏



五木田氏



松崎委員長



宮内副会長



地域協議会代表者



千葉市中央公園



ガンバロー三唱



デモ行進先頭



デモ行進

『教育フォーラムちば2025』を開催

2025年3月8日（土）千葉県教育会館 大ホール（WEB併用）において、連合千葉、千葉県教職員組合、千葉市教職員組合の共催にて「子どもたちの健やかな成長のために ～多様性の時代 家庭・学校教育のアップデート～」をテーマに『教育フォーラムちば2025』を開催し、407名の方々にご参加いただきました。

千葉県教職員組合の鶴島委員長の開会挨拶、連合千葉の永富会長より主催者代表挨拶の後、御来賓を代表して、千葉県教育庁教育振興部の荒金誠司部長、連合千葉議員団会議の三瓶輝枝副会長からご挨拶を頂戴し、その後「第1部 講演」「第2部 シンポジウム」を実施しました。なお、本シンポジウムには13団体からご後援をいただきました。

＜後 援＞

・千葉県教育委員会 ・千葉市教育委員会 ・千葉県経営者協会
 ・千葉県退職者連合 ・千葉県労働者福祉協議会 ・連合千葉議員団会議
 ・千葉県小学校長会 ・千葉県中学校長会 ・千葉市小中学校長会
 ・千葉県公立学校教頭会 ・千葉県 PTA 連絡協議会
 ・千葉市 PTA 連絡協議会 ・千葉大学教育学部



千教組 鶴島委員長



連合千葉 永富会長



千葉県 荒金部長



議員団 三瓶副会長



講師：鈴木 寛 教授

コーディネーター
関 さん（左） 藤咲 さん（右）

【第1部 講演】

東京大学ならびに慶応義塾大学の鈴木寛教授から「これからの教育の在り方～多様性とウェルビーイング～」というテーマでご講演いただきました。この講演では、不登校・日本語指導が必要・特別支援学級に在籍する子どもたちが増加している現状について説明があり、これを踏まえて、指導主事未配置の課題、教育支援センターの活用、コミュニティ・スクールの有用性等についてのお話がありました。

【第2部 シンポジウム】

＜コーディネーター＞ ○関 昌一 さん（実行委員長）○藤咲 貴久 さん（実行委員）
 ＜シンポジスト＞
 ○鈴木 寛 さん（東京大学教授） ○元吉 ひとみ さん（千葉市小学校日本語教室担当）
 ○進藤 宏美 さん（スクールカウンセラー） ○ゆ う さん（LGBTQ当事者）
 ○沼倉 智美 さん（ちばLGBTQフレンズ代表）

千葉市教組
小幡委員長

元吉 ひとみ さん



進藤 宏美 さん



ゆ う さん



沼倉 智美 さん



詳細はHP
でご覧ください▼

最後に千葉市教職員組合の小幡委員長の挨拶をもって閉会となりました。土曜日にも関わらず、会場に足をお運びいただきました皆様、WEBでご視聴くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

連合千葉国際女性デー

2025年3月4日（火）17時00分からビックカメラ千葉駅前店前にて開催を予定していた連合千葉国際女性デーは、降雨および降雪の悪天候が予想されていることから、中止としました。

【参考】

『国際女性デー』は「毎年3月8日、女性の社会参加と地位向上を訴える日」のことで、1904年3月8日にアメリカの女性労働者が婦人参政権を求めて起こしたデモがきっかけだと言われています。こうした動きはヨーロッパやロシアなど世界中に広がり、1975年に国連は「女性の社会参加と地位向上を訴える日」とともに「女性の素晴らしい活躍と、勇気ある行動を称える日」として毎年3月8日を国際デーに定められ、世界各国で様々な行動が展開されています。



昨年の様子